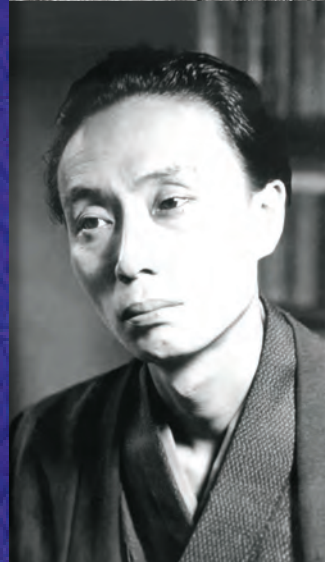




第一〇一回明治大学中央図書館ギャラリー展示



山の上ホテルを 愛した作家たち

— 小林秀雄をはじめとして



2026年10月23日(金)～2027年4月11日(日)

休館 | 10月30日(金)、11月1日(日)、30日(月)、12月29日(火)～1月4日(月)、
2月5日(金)、7日(日)、14日(日)、21日(日)、26日(金)、28日(日)、
3月12日(金)、30日(火)

会場 | 明治大学中央図書館 1Fギャラリー(入場無料)
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL 03-3296-4250

時間 | 図書館の開館時間中にご観覧いただけます。
<https://www.meiji.ac.jp/library/>



写真提供：公益財団法人日本近代文学館、株式会社山の上ホテル



写真提供：株式会社山の上ホテル

「山の上ホテルを愛した作家たち—小林秀雄をはじめとして」 開催にあたって

2025年3月に開催した「山の上ホテルを愛した作家たち—川端康成・三島由紀夫」に続きまして、山の上ホテルにゆかりのある小林秀雄をはじめとする7名の作家・評論家の著作についてご紹介いたします。

神田駿河台の丘の上に建つ“ヒルトップ”の愛称で呼ばれる「山の上ホテル」は、1937（昭和12）年に米国の建築家であるヴォーリズ（William Merrell Vories）氏の設計により、明治大学の校友であり本学専門部女子部校舎建設も支援された佐藤慶太郎氏（1890（明治23）年卒業）の寄付を基に、当時の生活困窮者の生活改善などを目的に全国的規模で展開した「大日本生活協会」の本部として「佐藤新興生活館」という名称で建設された建物が始まりです。

戦時中は旧海軍、戦後はGHQに接収されWAC（米国婦人陸軍部隊）の宿舎として使用され、その後、1954（昭和29）年1月に「山の上ホテル」として開業されました。その趣のある外観とすみずみまで行き届いたおもてなしは、多くの方々に愛され、著名な文豪たちもその時をここで過ごしました。

この歴史的建築物を明治大学が継承したことを記念して開催する本展示では、本学が所蔵する特色あるコレクション「日本近代文学文庫」より小林秀雄、水原秋櫻子、井上靖、高見順、中村眞一郎、内田百閒、吉田健一諸氏の貴重な資料をご覧ください。文豪たちとともに、ひととき昭和へのタイムスリップをお楽しみください。

なお、山の上ホテルの写真は、全て株式会社山の上ホテル様よりご提供いただきました。

明治大学図書館

山の上ホテルを愛した作家たち

— 七人の文人の足跡 —

山の上ホテルを愛し、その歴史とともに歩んだ七人の文人たちの足跡をたどります。

小林 秀雄 (1902-1983)

1902 (明治 35) 年、東京市神田区に生まれました。東京帝国大学仏文科でフランス文学を学び、在学中から文学や芸術について深く考察を重ねました。1930 年代には文芸批評の分野で活躍し、鋭い洞察力と格調高い文章によって、日本の文芸批評に新たな地平を切り開きました。代表作『文藝評論』『私小説論』では、流行や時代の風潮に左右されることなく、作品そのものと真摯に向き合いながら文学の本質を問い続けました。その姿勢は多くの作家や読者に大きな影響を与えています。



また、1932 (昭和 7) 年に創設された明治大学文芸科の講師となり、その後教授として 1946 (昭和 21) 年まで教壇に立ち、後進の育成にも尽力しました。戦後は『無常といふ事』『ゴッホの手紙』『本居宣長』などを発表し、文学のみならず美術や日本文化へと考察の幅を広げました。「本物」とは何かを問い続けた知性は、今なお多くの人々を魅了しています。

水原 秋櫻子 (1892-1981)

俳人。東京生まれ。本名は水原豊。東京帝国大学医学部で学び、高浜虚子に師事して俳句の道に入りました。のちに俳誌「馬酔木」を主宰し、抒情性を重んじる独自の俳風で近代俳句に新たな道を開きました。句集『葛飾』『霜林』『残鐘』などで知られ、「四S時代」(水原秋櫻子、山口誓子、高野素十、阿波野青畝)を代表する俳人の一人です。



井上 靖 (1907-1991)

小説家。北海道旭川町生まれ。京都帝国大学で美学を学び、新聞記者を経て作家となりました。戦後、『闘牛』『猟銃』で注目を集め、『氷壁』などの現代小説や、『天平の夢』『敦煌』『蒼き狼』などの歴史小説で高い評価を得ました。シルクロードを舞台にした作品群でも知られ、歴史の中に生きる人間の運命を描き続けた国民的作家です。





高見 順 (1907–1965)

小説家・詩人。福井県三国町生まれ。本名は高間芳雄。東京帝国大学英文科で学び、プロレタリア文学運動に関わりました。自身の出自や時代への葛藤を描いた『故旧忘れ得べき』『如何なる星の下に』などで高い評価を得ます。戦後も創作と詩作を続け、『高見順日記』をはじめとする作品を通して、人間の苦悩と昭和という時代を見つめ続けた作家です。



中村 眞一郎 (1918–1997)

小説家・評論家。東京市日本橋箱崎町生まれ。東京帝国大学仏文科で学び、フランス文学と王朝文学に深く親しまいました。戦後は加藤周一、福永武彦らとともに新しい文学の潮流を担い、『空中庭園』『雲のゆき来』などを発表。西欧文学の知見と日本の伝統を結びつけ、人間精神のあり方を探究した作家です。



内田 百閒 (1889–1971)

小説家・随筆家。岡山市生まれ。東京帝国大学在学中から夏目漱石を深く敬愛し、その影響を受けました。漱石の没後は、全集の編纂にも携わりました。幻想的な短編集『冥途』や『百鬼園随筆』で独自の文学世界を確立。戦後は『阿房列車』『ノラや』などを発表し、不安とユーモアが交錯する個性的な文章で多くの読者を魅了しました。



吉田 健一 (1912–1977)

批評家・小説家。東京市千駄ヶ谷生まれ。外交官・政治家の吉田茂を父に持ち、少年期をヨーロッパで過ごしました。『英国の文学』『シェイクスピア』などで独自の英文学論を展開し、『日本について』『ヨオロッパの世紀末』などを著しました。さらに『乞食王子』『瓦礫の中』などの小説や随筆でも活躍し、日本と西洋の文化を自在に往還する独自の文学世界を築きました。



1. 常盤新平著 『山の上ホテル物語』 白水社 2002 年 090.2/201//H

翻訳家・エッセイストであり直木賞受賞作家でもある著者が、執筆当時ホテルの相談役であった吉田令子氏をはじめ、総支配人や副総支配人への取材を重ねて書き上げた 1 冊。居心地のよい特別なホテルを目指すスタッフたちの情熱が、生き生きと描かれている。

2. 森裕治著 『山の上ホテルの流儀：多くの作家に愛されてきた魅力とは』 河出書房新社 2011 年 090.2/200//H

多くの作家たちに愛され続けた山の上ホテル。その伝統を大切に守り続けてきた人々のサービスとスピリットを、創業者の孫であり執筆当時の社長である著者が綴る。名だたる作家たちの逸話には、思わず驚かされる。

3. アルチュール・ランボー(1854-1891)作 小林秀雄(1902-1983)訳 『地獄の季節』 白水社 昭和 5 (1930) 年 装幀：佐野繁次郎 署名入り MB100/KO1-14/B/W

4. 小林秀雄(1902-1983)著 『文藝評論』正・続(2 冊) 白水社 昭和 6-7 (1931-1932) 年 装幀：青山二郎 署名入り MB100/KO1-2//W

5. 小林秀雄(1902-1983)著 『文藝評論』續々 芝書店 昭和 9 (1934) 年 装幀：青山二郎 MB100/KO1-2//W

3 巻から成る評論集。正・続巻(白水社、1931-32 年)は「様々なる意匠」以降の評論を中心に編まれ、續々巻(芝書店、1934 年)にはランボーやボードレール、ドストエフスキー論など初期の仕事も収録されている。従来の印象批評や社会科学的批評とは異なり、批評という行為そのものを自覚的に捉え直した点で当時の文学界に新鮮な衝撃を与えた。刊行時には川端康成が高く評価し、その存在感を印象づけた。

参考文献：『日本近代文学大事典』(亀井秀雄執筆項目)

6. アルチュール・ランボー(1854-1891)著 小林秀雄(1902-1983)訳 『酩酊船』 白水社 昭和 6 (1931) 年 限定版 越前特漉局紙印刷 詩面木版水畫具摺 230 部限定のうち本学所蔵分は 17 番 装幀並意匠：青山二郎 MB100/KO1-19//W

7. ポール・ヴァレリー(1871-1945)著 小林秀雄(1902-1983)訳 『テスト氏との一夜』(テスト氏；1) 江川書房 昭和 7 (1932) 年 限定版 MB100/KO1-13//W

8. アルチュール・ランボー(1854-1891)著 小林秀雄(1902-1983)訳 『酩酊船；堪忍；オフエリア』(詩集；第 1 巻) 江川書房 昭和 8 (1933) 年 限定 280 部 MB100/KO1-11//W

9. 小林秀雄(1902-1983) 著 『一つの脳髓』(四季叢書; 第2編) 四季社 昭和8(1933)年
500部限定[通番あり] MB100/KO1-16//W

10. ポール・ヴァレリー(1871-1945) 著 小林秀雄(1902-1983) 訳 『テスト氏』 野田書房
昭和9(1934)年 署名入り MB100/KO1-12//W

11. 小林秀雄(1902-1983) 著 『私小説論』 作品社 昭和10(1935)年 装幀: 青山二郎
袋綴じ本 署名入り MB100/KO1-1//W

評論集。表題作「私小説論」をはじめ、シュストフ論や同時代作家論、文芸時評などを収める。
私小説をめぐる議論の出発点として重要で、思想と文学の関係を問い直しつつ、個人の内面の真実
をいかに表現するかという課題を提示した点に特色がある。

参考文献:『日本近代文学大事典』(亀井秀雄執筆項目)

12. アルチュール・ランボー(1854-1891) 著 小林秀雄(1902-1983) 訳 『渇の喜劇』(コルボオ
叢書; 8) 野田書房 昭和12(1937)年 非売品 耳付き 純白局紙 漉紙は山田九兵衛
装幀はフランス製木炭紙假綴 150部限定のうち本学所蔵分は No.38 署名入り
MB200/47//W

13. 小林秀雄(1902-1983) 著 『ドストエフスキイの生活』 創元社 昭和14(1939)年 署名
入り MB100/KO1-10//W

評論集。「文学界」に連載された表題作に「歴史について」を序として収める。シュストフの影響を
踏まえつつ、民衆と知識人のあいだに立つドストエフスキイ像を探究し、その過程で従来の解釈を
乗り越えた、より広がりのある文学者像を提示している。後半では民衆観や戦争をめぐる認識にも
論が及ぶ。

参考文献:『日本近代文学大事典』(亀井秀雄執筆項目)

14. 小林秀雄(1902-1983) 著 『無常といふ事』 創元社 昭和21(1946)年 署名入り
MB100/KO1-5//W

評論集。戦時期に「文学界」に発表された古典論六編(『当麻』『無常といふ事』『平家物語』『徒
然草』『西行』『実朝』)を収める。日本古典を通して人間の無常観を捉え直し、対象を理想的に把
握しようとする小林の批評姿勢がよく表れている。とりわけ『西行』『実朝』では、生と死への思索
が印象的に示されている。

参考文献:『日本近代文学大事典』(亀井秀雄執筆項目)

15. 小林秀雄(1902-1983) 著 『真贋』 新潮社 昭和26(1951)年 署名入り
MB100/KO1-4//W

16. 小林秀雄(1902-1983) 著 『近代絵画』 人文書院 昭和 33 (1958) 年 署名入り
MB100/KO1-8//W

小林秀雄による評論。ピカソ、モネ、セザンヌら近代画家を取り上げ、その表現や芸術観を論じる。美術作品の本質を言葉によって捉えようとした点に特色がある。1958 年、第 11 回野間文芸賞受賞。参考文献：『デジタル大辞泉』

17. 小林秀雄(1902-1983) 著 『感想』 創元社 昭和 34 (1959) 年 署名入り
MB100/KO1-3//W

18. 小林秀雄(1902-1983) 著 『無私の精神』(限定版叢書；第 1 輯) 文治堂書店 昭和 38 (1963) 年 限定部 500 部 MB100/KO1-7//W

19. 小林秀雄(1902-1983) 自筆草稿 『壺』 昭和 39 (1964) 年 ペン書き 400 字詰自家用原稿用紙 8 枚完 MB100/KO1-18//W

自筆草稿「壺」は土門拳写真『信楽大壺』(中日新聞出版局、昭和 40 年 3 月)の「まえがき」として執筆されたもの。「小林用箋」と入った升目の原稿用紙 8 枚完結。最後の行に執筆年「一九六四・一〇・八」とある。草稿には加筆、削除の跡があり、推敲の軌跡をたどることができる。加筆は、全体に、挿入した語句が原稿用紙の次行の升目に記載されている箇所が多い。これは、全体を書き上げてからの推敲ではなく、書いている時点で語句を挿入した様子を表している。また、挿入した語句や削除した後の書き換えが、行の右側に置かれている場合が数箇所ある。この部分は全体を書き終えてからの推敲した痕跡ではないかと推測する。さらに、推敲の跡として、語句を消した箇所にどのような語が書かれていたかも関心と呼ぶ。草稿が語りかけるものは少なくない。

小林秀雄は昭和 7 年に新設された明治大学文芸科の講師となり、13 年教授、21 年辞任。明治大学にゆかりのある一人である。

20. 小林秀雄(1902-1983) 著 『考えるヒント』 文芸春秋 昭和 39 (1964) 年 署名入り
MB100/KO1-6//W

21. 小林秀雄(1902-1983) 著 『藝術隨想』 新潮社 昭和 42 (1967) 年 限定 1000 部 署名入り MB100/KO1-9//W

22. アルチュール・ランボー(1854-1891) 著 小林秀雄(1902-1983) 訳 『ランボオ詩集』 創元社 昭和 47 (1972) 年 総白革装 二重函入り 限定 380 部の内第 215 番 署名入り
MB100/KO1-21//W

23. 小林秀雄(1902-1983)著 『信ずることと知ること』 槐書房 昭和 53 (1978) 年 総白革装 天金 夫婦函・外函・輸送函 ペン署名入り 限定 205 部の内 172 番 署名入り MB100/KO1-20//W

『信ずることと知ること』は昭和 49 年 8 月「國民文化研究會」の九州霧島講演に基づく。このほか『新年雑談』(「波」昭和 49 年新年号初出)も収録。

『信ずることと知ること』は、前半にフランスの哲学者ベルグソン(Henri-Louis Bergson: 1859-1941)について、後半は民俗学者柳田國男(1875-1962)について言及している。

理性的な人間は、科学的なもののみを思考の対象としており、一般的に経験される科学的ではないものをどう扱うのか。学者をはじめとする今日の知識人は「超能力」のような超自然現象に対して、「正しいか、正しくないか」という単純な判断基準だけで扱い、具体的な体験を抽象化、合理化してしまうと小林秀雄は述べている。

また体験を体験として自然と受け入れる柳田國男の態度に対し小林秀雄は素直に感動している。その感動は、柳田國男の類まれな感受性、具体的な経験への尊重の態度、そしてそこから自然に導かれる魂への態度までへと続く。

24. 水原秋櫻子(1892-1981)著 『秋苑』 龍星閣 昭和 10 (1935) 年 特製本 古代布装表紙背革 天金 特装 70 部のうち第 52 番目 署名入り MB100/MI30-1//W

25. 水原秋櫻子(1892-1981)著 『葛飾』 沙羅書店 昭和 11 (1936) 年 決定版 特製 100 部のうち本学所蔵のものは 57 号 函あり MB100/MI30-2//W

水原秋櫻子の第一句集で、初期から昭和 4 年頃までの作品を収める。従来 of 俳句には見られなかった自然の新しい把握を示し、同時代の俳人たちに強い影響を与え、俳壇に大きな変化をもたらした句集である。

参考文献：『新潮日本文学辞典』(石田波郷執筆項目)

26. 井上靖(1907-1991)著 『闘牛』 文藝春秋新社 昭和 25 (1950) 年 装幀：猪熊弦一郎 署名入り MB100/IN6-1//W

『文學界』昭和 24 年 12 月号に発表された短編小説。第 22 回芥川賞受賞作品。新大阪新聞社主催により西宮球場で実際に催された南予闘牛大会をモデルとしている。終戦直後の混沌とした空気の中、闘牛大会の実現に注力する新聞記者の情熱、その行動の裏に見え隠れする孤独な心情を描く。あとがきには「本書校正中、『闘牛』による芥川賞受賞の報に接し、その僥倖に驚くと共に、果して今後大方の期待に添ひ得るか否かを懼れるものでもあるが、常に文学の高い峯の稜線に目をおき、真直ぐに歩いていく態度だけは決して失ふまいと自分にいひきかせてゐる」とある。文壇デビューのきっかけとなった本作中で「社運を賭した」大事業に奔走する主人公の思いと、新聞記者から轉身し「作家に賭ける」筆者自身の決意とを重ねているようでもある。

27. 高見順(1907-1965) 著 『文藝随感』 河出書房 昭和 17 (1942) 年 署名入り
MB100/TA10-1//W

28. 高見順(1907-1965) 著 『文學者の運命』 中央公論社 昭和 23 (1948) 年 扉：浅井眞
MB100/TA10-4//W

29. 高見順(1907-1965) 著 『死の淵より：詩集』 講談社 昭和 39 (1964) 年 署名入り
MB100/TA10-2//W

詩集(1964年、「群像」掲載後、講談社刊)。食道癌の手術後、病床での約一年間に制作された作品から成る。死の恐れや苦悩と向き合いながらも、生への強い意志や回復の喜びが表現されており、極限状況における精神の揺れと再生の過程が印象的に描かれている。野間文芸賞受賞作。
参考文献：『日本近代文学大事典』(小田切進執筆項目)

30. 高見順(1907-1965) 著 『高見順詩集』 私家版 高見晶子発行 昭和 52 (1977) 年 装幀：
田辺輝男 高見順十三回忌記念 MB100/TA10-3//W

31. ジェラルド・ド・ネルヴァル(1808-1855) 作 中村眞一郎(1918-1997) 訳 『暁の女王と
精霊の王の物語』 白水社 昭和 18 (1943) 年 署名入り MB100/NA25-1//W

32. ジャン・ジロドゥ(1882-1944) 著 中村眞一郎(1918-1997) 訳 『シュザンヌと太平洋』
(現代佛蘭西小説集) 青磁社 昭和 21 (1946) 年 署名入り MB100/NA25-6//W

33. 中村眞一郎(1918-1997) 著 『死の影の下に』 眞善美社 昭和 22 (1947) 年
MB100/NA25-5//W

長編小説。のちに続く一連の連作長編の第1作で、「シオンの娘等」以下へと展開していく作品群の出発点にあたる。

参考文献：『デジタル大辞泉』

34. 中村眞一郎(1918-1997) 著 『詩集』 書肆ユリイカ 昭和 25 (1950) 年 限定 300 部 署
名入り MB100/NA25-2//W

35. 中村眞一郎(1918-1997) 著 『長い旅の終り』 河出書房 昭和 27 (1952) 年 署名入り
MB100/NA25-3//W

36. 中村眞一郎(1918-1997) 著 『文學の魅力』 東京大学出版会 昭和 28 (1953) 年 署名入
り MB100/NA25-4//W

37. 内田百閒(1889-1971) 著 『旅順入城式』 岩波書店 昭和 9 (1934) 年 毛筆識語献呈署名あり MB100/UC1-14//W

昭和 9 年 2 月、岩波書店刊。『冥土』につづく、内田百閒の第二創作集である。全 29 篇を収録する。作者の自序にも記載のように、収録作品の最初の 7 編は物語らしきものはあるものの、その他の作品は物語らしきものが存在しない。『冥土』の作風を継ぐ、散文による幻想的なスケッチといった感覚の作品集である。表題作「旅順入城式」は、日露戦争で乃木希典が旅順に入場した際の映画フィルムを鑑賞している「私」の印象記であり、これといった物語が展開するわけではない。第一創作集である『冥土』と並び、内田百閒の初期を代表する作品が収められている。

38. 内田百閒(1889-1971) 著 『百鬼園随筆』 續 三笠書房 昭和 9 (1934) 年 谷中安規木版口絵 番號入り壹千部の内 753 MB100/UC1-6//W

随筆集。雑誌や新聞などに発表された随筆 34 編を収め、「短章二十二篇」「貧乏五色揚」「七草雑炊」の三部から成る。幼少期の回想や教師生活、漱石に関する文章など幅広い内容を含み、随筆的なものから小説的要素の強い作品まで多彩である。自己の経験や心情をやや距離を置いて描き、独特のユーモアを生み出している点に特色がある。

参考文献：『日本近代文学大事典』（内田道雄執筆項目）

39. 内田百閒(1889-1971) 作 谷中安規画 『王様の背中：お伽噺集』 楽浪書院 昭和 9 (1934) 年 MB100/UC1-4//W

40. 内田百閒(1889-1971) 著 『鶴』 三笠書房 昭和 10 (1935) 年 装幀：岩瀬高次 MB100/UC1-7//W

41. 内田百閒(1889-1971) 著 『百鬼園日記帖』 三笠書房 昭和 10 (1935) 年 装幀：内田唐助 吹田順助宛毛筆署名入り MB100/UC1-8//W

42. 内田百閒(1889-1971) 著 『凸凹道』 三笠書房 昭和 10 (1935) 年 内藤吐天宛毛筆署名入り MB100/UC1-9//W

『鶴』に続く第 5 冊目の文集。三笠書房より普通版と特装版（限定 500 部）が発売されており、本書は普通版。遊び紙には「内藤吐天様 百閒」と著者直筆署名が入っている。40 編の短編と 8 編の雑俎の構成である。文芸評論家の勝本清一郎は、本文集を形式、内容共に「二刀流」であり、さまざまな 2 つのものが対立していることが、内田作品の面白さ、狙い所であると東京朝日新聞で述べている。

43. 内田百閒(1889-1971) 著 『有頂天』 中央公論社 昭和 11 (1936) 年 装幀：北村孟徳 MB100/UC1-2//W

44. 内田百閒(1889-1971) 著 谷中安規画 『居候勿々』 小山書店 昭和 12 (1937) 年
MB100/UC1-5//W
45. 内田百閒(1889-1971) 著 『丘の橋』 新潮社 昭和 13 (1938) 年 装幀：中川一政
MB100/UC1-1//W
46. 内田百閒(1889-1971) 著 『鬼苑横談』 新潮社 昭和 14 (1939) 年 装幀：三雲祥之助 車
谷弘宛毛筆署名入り MB100/UC1-10//W
47. 内田百閒(1889-1971) 著 『菊の雨』 新潮社 昭和 14 (1939) 年 装幀：織田一磨 毛筆
献呈署名入り MB100/UC1-11//W
48. 内田百閒(1889-1971) 著 『南山壽』 中央公論社 昭和 15 (1940) 年 MB100/UC1-3//W
49. 内田百閒(1889-1971) 著 『大貧帳』 拓南社 昭和 16 (1941) 年 版畫意匠：谷中安規
MB100/UC1-12//W
50. ポール・ヴァレリー(1871-1945) 著 吉田健一(1912-1977) 訳 『ドガに就て：造形美論』
筑摩書房 昭和 15 (1940) 年 署名入り MB100/YO11-2//W
51. エドガー・アラン・ポー(1809-1849) 著 吉田健一(1912-1977) 訳 『赤い死の舞踏会』
若草書房 昭和 23 (1948) 年 署名入り MB100/YO11-14//W
52. 吉田健一(1912-1977) 著 『英國の文學』 雄鷄社 昭和 24 (1949) 年 署名入り
MB100/YO11-13//W
53. オスカー・ワイルド(1854-1900) 著 吉田健一(1912-1977) 訳 『藝術論：藝術家としての
批評家』(要選書；第 16) 要書房 昭和 26 (1951) 年 署名入り MB100/YO11-7//W
54. 吉田健一(1912-1977) 著 『シェイクスピア』 垂水書房 昭和 31 (1956) 年 自家特装版
50 部 署名入り MB100/YO11-11//W
55. 吉田健一(1912-1977) 著 『舌鼓ところどころ』 文藝春秋新社 昭和 33 (1958) 年 署名
入り MB100/YO11-5//W
56. 吉田健一(1912-1977) 著 『文学の楽しみ』 河出書房新社 昭和 42 (1967) 年 署名入り
MB100/YO11-3//W

57. 吉田健一(1912-1977) 著 『ヨオロッパの世紀末』 新潮社 昭和 45 (1970) 年 署名入り
MB100/YO11-8//W

長編評論。「ユリイカ」(青土社・1969 年 7 月～1970 年 6 月) に連載。ヨーロッパの 18 世紀を、その文化的完成期として捉え、19 世紀を「政治と科学」に奉仕した時代として批判的に位置づける。そのうえで「世紀末」を、硬直化した近代からの解放と再生の契機として論じる。

参考文献：『日本近代文学大事典』(佐伯彰一執筆項目)

58. 吉田健一(1912-1977) 著 『文学が文学でなくなる時』 集英社 昭和 47 (1972) 年 署名入り
MB100/YO11-9//W

59. 吉田健一(1912-1977) 著 『私の食物誌』 中央公論社 昭和 47 (1972) 年 署名入り
MB100/YO11-6//W

60. 吉田健一(1912-1977) 著 『書架記』 中央公論社 昭和 48 (1973) 年 署名入り
MB100/YO11-12//W

61. 吉田健一(1912-1977) 著 『本が語ってくれること』 新潮社 昭和 50 (1975) 年 署名入り
MB100/YO11-4//W

62. 吉田健一(1912-1977) 著 『旅の時間』 河出書房新社 昭和 50 (1975) 年 署名入り
MB100/YO11-1//W

山の上ホテルを愛した作家たち—小林秀雄をはじめとして

出展リスト			
	通番	タイトルなど	請求記号
A ゾ ー ン	1	山の上ホテル物語 / 常盤新平著. -- 白水社, 2002.	090.2/201//H
	2	山の上ホテルの流儀 : 多くの作家に愛されてきた魅力とは / 森裕治著. -- 河出書房新社, 2011.	090.2/200//H
B ゾ ー ン	3	地獄の季節 / アルチュール・ランボオ [作]; 小林秀雄訳. -- 白水社, 1930.	MB100/KO1-14/B/W
	4	文藝評論 / 小林秀雄著; [正], 續. -- 白水社, 1931-1932.	MB100/KO1-2//W
	5	文藝評論 / 小林秀雄著; 續々. -- 芝書店, 1934.	MB100/KO1-2//W
	6	酩酊船 / あるちゆるらんぼお [著]; 小林秀雄訳. -- 白水社, 1931.	MB100/KO1-19//W
	7	テスト氏との一夜 / ポオル・ヴァレリ著; 小林秀雄訳. -- 江川書房, 1932. -- (テスト氏 / ポオル・ヴァレリ著; 小林秀雄訳; 1).	MB100/KO1-13//W
	8	酩酊船; 堪忍; オフェリア / アルチュール・ランボウ [著]; 小林秀雄訳. -- 江川書房, 1933. -- (詩集 / アルチュール・ランボウ [著]; 小林秀雄訳; 第1巻).	MB100/KO1-11//W
	9	一つの脳髓 / 小林秀雄著. -- 四季社, 1933. -- (四季叢書; 第2編).	MB100/KO1-16//W
	10	テスト氏 / ポオル・ヴァレリイ著; 小林秀雄訳. -- 野田書房, 1934.	MB100/KO1-12//W
	11	私小説論 / 小林秀雄著. -- 作品社, 1935.	MB100/KO1-1//W
	12	渇の喜劇 / アルチュール・ランボオ [著]; 小林秀雄訳. -- 野田書房, 1937. -- (コルボオ叢書; 8).	MB200/47//W
	13	ドストエフスキイの生活 / 小林秀雄著. -- 創元社, 1939.	MB100/KO1-10//W
	14	無常といふ事 / 小林秀雄著. -- 創元社, 1946.	MB100/KO1-5//W
	15	真贋 / 小林秀雄著. -- 新潮社, 1951.	MB100/KO1-4//W
	16	近代絵画 / 小林秀雄著. -- 人文書院, 1958.	MB100/KO1-8//W
	17	感想 / 小林秀雄著. -- 創元社, 1959.	MB100/KO1-3//W
	18	無私の精神 / 小林秀雄著. -- 文治堂書店, 1963. -- (限定版叢書; 第1輯).	MB100/KO1-7//W
	19	[小林秀雄自筆草稿] 壺 / 小林秀雄 [著]. -- 小林秀雄 [自筆], 1964.	MB100/KO1-18//W
	20	考えるヒント / 小林秀雄著. -- 文芸春秋, 1964.	MB100/KO1-6//W
	21	藝術隨想 / 小林秀雄著. -- 新潮社, 1967.	MB100/KO1-9//W
	22	ランボオ詩集 / アルチュール・ランボオ [著]; 小林秀雄訳. -- 限定版. -- 創元社, 1972.	MB100/KO1-21//W
	23	信ずることと知ること / 小林秀雄著. -- 槐書房, 1978.	MB100/KO1-20//W
C ゾ ー ン	24	秋苑 / 水原秋櫻子著. -- [特製本]. -- 龍星閣, 1935.	MB100/MI30-1//W
	25	葛飾 / 水原秋櫻子著. -- 決定版. -- 沙羅書店, 1936.	MB100/MI30-2//W
	26	闘牛 / 井上靖著. -- 文芸春秋新社, 1950.	MB100/IN6-1//W
	27	文藝隨感 / 高見順著. -- 河出書房, 1942.	MB100/TA10-1//W
	28	文學者の運命 / 高見順著. -- 中央公論社, 1948.	MB100/TA10-4//W
	29	死の淵より : 詩集 / 高見順著. -- 講談社, 1964.	MB100/TA10-2//W
	30	高見順詩集 / 高見順著. -- 私家版. -- 高見晶子, 1977.	MB100/TA10-3//W

	通番	タイトルなど	請求記号
C ゾ ン	31	暁の女王と精霊の王の物語 / ジェラール・ド・ネルヴァル作 ; 中村眞一郎訳. -- 白水社, 1943.	MB100/NA25-1//W
	32	シュザンヌと太平洋 / ジャン・ジロドゥ [著]; 中村眞一郎譯. -- 青磁社, 1946. -- (現代佛蘭西小説集).	MB100/NA25-6//W
	33	死の影の下に / 中村眞一郎著. -- 眞善美社, 1947.	MB100/NA25-5//W
	34	詩集 / 中村眞一郎著. -- 書肆ユリイカ, 1950.	MB100/NA25-2//W
	35	長い旅の終り / 中村眞一郎著. -- 河出書房, 1952.	MB100/NA25-3//W
	36	文學の魅力 / 中村眞一郎著. -- 東京大学出版会, 1953.	MB100/NA25-4//W
D ゾ ン ①	37	旅順入城式 / 内田百閒著. -- 岩波書店, 1934.	MB100/UC1-14//W
	38	百鬼園隨筆 / 内田百閒著. 續. -- 三笠書房, 1934.	MB100/UC1-6//W
	39	王様の背中 : お伽噺集 / 内田百閒作 ; [谷中] 安規画. -- 楽浪書院, 1934.	MB100/UC1-4//W
	40	鶴 / 内田百閒著. -- 三笠書房, 1935.	MB100/UC1-7//W
	41	百鬼園日記帖 / 内田百閒著. -- 三笠書房, 1935.	MB100/UC1-8//W
	42	凸凹道 / 内田百閒著. -- 三笠書房, 1935.	MB100/UC1-9//W
	43	有頂天 / 内田百閒著. -- 中央公論社, 1936.	MB100/UC1-2//W
	44	居候勿々 / 内田百閒著, 谷中安規画. -- 小山書店, 1937.	MB100/UC1-5//W
	45	丘の橋 / 内田百閒著. -- 新潮社, 1938.	MB100/UC1-1//W
	46	鬼苑横談 / 内田百閒著. -- 新潮社, 1939.	MB100/UC1-10//W
	47	菊の雨 / 内田百閒著. -- 新潮社, 1939.	MB100/UC1-11//W
	48	南山壽 / 内田百閒著. -- 中央公論社, 1940.	MB100/UC1-3//W
	49	大貧帳 / 内田百閒著. -- 拓南社, 1941.	MB100/UC1-12//W
D ゾ ン ②	50	ドガに就て : 造形美論 / ヴァレリイ[著]; 吉田健一訳. -- 筑摩書房, 1940.	MB100/YO11-2//W
	51	赤い死の舞踏会 / エドガア・アラン・ポオ著 ; 吉田健一訳. -- 若草書房, 1948.	MB100/YO11-14//W
	52	英國の文學 / 吉田健一著. -- 雄鷄社, 1949.	MB100/YO11-13//W
	53	藝術論 : 藝術家としての批評家 / ワイルド著 ; 吉田健一訳. -- 要書房, 1951. -- (要選書 ; 第16).	MB100/YO11-7//W
	54	シェイクスピア / 吉田健一著. -- 垂水書房, 1956.	MB100/YO11-11//W
	55	舌鼓とところどころ / 吉田健一著. -- 文藝春秋新社, 1958.	MB100/YO11-5//W
	56	文學の楽しみ / 吉田健一著. -- 河出書房新社, 1967.	MB100/YO11-3//W
	57	ヨオロツパの世紀末 / 吉田健一著. -- 新潮社, 1970.	MB100/YO11-8//W
	58	文學が文學でなくなる時 / 吉田健一著. -- 集英社, 1972.	MB100/YO11-9//W
	59	私の食物誌 / 吉田健一著. -- 中央公論社, 1972.	MB100/YO11-6//W
	60	書架記 / 吉田健一著. -- 中央公論社, 1973.	MB100/YO11-12//W
	61	本が語ってくれること / 吉田健一著. -- 新潮社, 1975.	MB100/YO11-4//W
	62	旅の時間 / 吉田健一著. -- 河出書房新社, 1975.	MB100/YO11-1//W

※このリストに掲載した書名・著者名などは、各資料に記載されている表記に従い、そのまま掲載しています。



第101回 明治大学中央図書館ギャラリー展示

「山の上ホテルを愛した作家たちー小林秀雄をはじめとして」

写真提供 : 株式会社山の上ホテル 公益財団法人日本近代文学館
明治大学史資料センター

編集 : 中央図書館ギャラリーワーキンググループ

発行 : 明治大学図書館

発行日 : 2026年10月23日